

\* \* \* \*

東部ヒマラヤの植物第2報(1971年),第3報(1975年)に発表したマメ科植物の中で,学名の訂正を必要とするものと,その後1975年4月から6月に British Museum (Natural History), Kew, Edinburgh および Paris の標本館でヒマラヤや中国のマメ科を研究した結果得られた新見解の一部とを併せて発表した。このうち日本にも分布するものはハタササゲ *Vigna unguiculata* (L.) Walp. var. *catjang* (Burm. f.) Ohashi, comb. nov. とタイワンカワラケツメイ *Cassia mimosoides* L. subsp. *lechenaultiana* (DC.) Ohashi, stat. nov. である。

熱帯に広く分布する *Cassia mimosoides* (狭義) とカワラケツメイの区別については東部ヒマラヤの植物第1報(1966年)で発表した。その後も *C. mimosoides* (広義) の変異に注意していたが,小葉と花の大きさには相当の変異があり,全分布域についてみると,特にインドとヒマラヤの熱帯で著しいことが判った。小葉,花および植物体の大きさについて一般的に言えば *C. mimosoides* (広義) の変異の幅の中で,カワラケツメイとタイワンカワラケツメイとはそれぞれ最小と最大の型である。

#### ○高等植物分布資料(88) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (88)

○アズマシクナゲ *Rhododendron metternichii* var. *pentamerum* Maxim. 岩手県胆沢郡胆沢町にアズマシクナゲの自生地が確認された。栗駒,焼石国定公園のほぼ中央部の岩手県側に真湯温泉があるがその北側に海拔 900 m ほどの祭時山(マツルベヤマ)がある。この祭時山の頂は一関市に入るが山裾は東南部が一関市,北西部が胆沢町若柳(旧若柳村)になり,この胆沢町分の一角に当る国有林内で自生群落を昭和50年6月21日に確認した。

アズマシクナゲは本州中北部に分布し,その南限は秩父山地,そして北限は宮城県栗原郡花山村と記録されており,今回の確認は約 25 km 北上し新自生北限地となる。自生地は海拔 650 m ほどの傾斜面で,約 20 a ほどに群生し,高木では 3 m ほどのものもみられる。

(鈴木 実,岩手県立六原農場)

#### ○再び台湾産 *Drymaria* について (常谷幸雄) Yukio JOTANI: Supplement notes on *Drymaria* from Taiwan

著者はさきに本誌第48巻第3号に,台湾の各地に *Drymaria cordata* Willdenow var. *pacifica* Mizushima に当るものが産すること,同時に同属のもので葉の幅が 25.0 mm をこえるもの,茎に腺毛があるもの,花柄に腺毛が多いもの,萼片に腺毛が見られるものなどがあることを報じた。その後1973年7月に奄美徳之島及び沖縄本島で同属のものを採集し,台湾産のものを含めて栽培して比較観察したところ,台湾産